

## 2021年度 美術学部 芸術学科 出題意図

### ◆外国語

長文を全文和訳させることで、その論旨を正しく把握できるかどうかを問うています。

#### 英語 問題 1

ルネサンス時代のイタリアとドイツを代表する画家レオナルド・ダ・ヴィンチとアルブレヒト・デューラーの比較論です。西洋美術の基礎的な知識に基づく英文の読解能力を見る問題です。自然観察に基づく造形の多様性という点で共通する両者の方向性がいかに異なるかを正確に訳出できるかがポイントとなります。

#### 英語 問題 2

絵画における文学的主題の位置について論じられた文章のうち、パウル・クレーの具象的・再現的絵画と抽象絵画の関係について述べられた部分です。クレーの絵画において、文学的主題は大きな位置を占めておらず、したがって、彼の具象絵画と抽象絵画の間に本質的な区別はない、というのがおおよその論旨です。全体として問題になっているのが具象絵画と抽象絵画の関係であるということさえつかむことができれば、内容上それほど難しい文章ではありません。一見したところ複雑で難解に見える文も、基本構文と基礎的な語法の組み合わせでできており、全体の文脈を理解したうえで落ち着いて読み解けば、理解できるはずです。この文章では特に、名詞と形容詞の関係や、繰り返しを避けるために省略されている部分をきちんととらえることができるかどうか重要です。

#### 仏語 問題 1

「動物」の美しさがどこにあるかを、美学の立場から論じた一節です。まずその外見の美、さらにそのような外見をもたらしたであろう、動物の体内での統一された組織の美に加え、その生命力を発散させつつ自由奔放に動く動物の美しさを称えています。はじめの外見と、そこから想像される体内の美しさについては安定したものとして論じ、つぎにこれと対照して問題文の最後のところで、奔放な「動き」の美しさを述べている、という点をまずしっかりつかんでください。構文の点では一文一文がやや長く感じられますが、はじめから訳し下ろすように読んでゆくことで、上述の内容は比較的つかみやすいと思われれます。そのときとくに、最後の一文中の *n'est pas seulement... mais...* の部分は本節の骨子にかかわる部分なので読み落さないように。

#### 仏語 問題 2

出題された文章は、芸術の受け手としての公衆とはどのようなものかということを論じたものです。広く考えれば、見ることのできる人が絵画の受け手であり、読むことができる人が文学の受け手ということになりますが、それは潜在的な公衆であり、現実的には、作品の受け手となるためには学習が必要であり、またそのような学習ができるのは特権的な人々に限られる、というのが文章の主旨です。語学的な観点から言えば、出題された文章には特に難解な箇所はありませんが、名詞と形容詞の性数の一致に注意し、「現実的」と「潜在的」、「可能な」と「ありそうな」の区別をきちんとすることによって論旨を正確に理解することができます。

### ◆地理歴史 日本史

要語句(人名、事項など)の説明を求める問題です。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに加

えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

### (1) 歎異抄

鎌倉仏教、法然、親鸞とその思想や、親鸞の門弟でこの書の編著者と見られている唯円について、悪人正機をはじめとするその内容などについて記述すること、またそうした基礎的な事項を踏まえた上で、この書が現代まで読み継がれ、文学者、哲学者をはじめ多くの人々、文化に影響を与えたことについて述べることを求めています。

### (2) 行基

奈良時代の高僧に関する基礎知識とともに、弾圧から称賛へと転換した律令政府の評価と、その背景にある仏教政策を問う問題です。キーワードは、次の通りです(下線は必須用語)。法相宗、民衆への布教、知識、四十九院、布施屋、溜池、架橋、社会事業、弾圧、禁圧、『僧尼令』、仏教統制、墾田開発、大仏建立、小僧行基、行基菩薩、大僧正

### (3) オランダ風説書

江戸時代の対外関係、対外情報収集に関する問題です。オランダ風説書は、幕府が長崎出島のオランダ商館長に提出させた海外情報。鎖国後の幕府は、貿易のみを求めたオランダを西洋唯一の窓口にアジア、ヨーロッパの情報を収集し、それは幕末まで続けられました。当初は来航を禁止したスペイン、ポルトガルの動向調査、アヘン戦争(1840年)後は別に詳細な『別段風説書』を提出させ、逼迫する海外情勢の情報収集につとめたことなどが基本事項となります。

### (4) 徳川慶喜

幕末の激動状況への理解を問う問題です。徳川慶喜(よしのぶ)は徳川幕府第15代・最後の将軍です。目まぐるしく変わる情勢の一方の主演ですが、慶喜自身の事跡(大政奉還、鳥羽伏見の戦い、江戸城無血開城など)に加え、彼を軸に複雑な状況変化を記述できれば高評価。将軍擁立をめぐる一橋派 vs 南紀派、条約締結をめぐる賛否、幕府・倒幕派による大政奉還 vs 王政復古の号令などです。そこでの慶喜は、幕府の中では改革派、倒幕派に対しては幕府将軍という困難な立場にあったことがわかります。

### (5) 平曲

軍記物の代表作である『平家物語』と密接な関係をもつ中世芸能に関する、基礎知識を問う問題です。キーワードは、次の通りです(下線は必須用語)。『平家物語』、信濃前司行長、生仏、鎌倉時代、語りもの、琵琶法師、盲僧、全国への流布、声明、後世の芸能への影響、鎮魂、無形文化財

### (6) 三内丸山遺跡

遺跡の時代・性格、出土した遺構や遺物に関する基礎知識とともに、縄文文化の概念に与える意味を問う問題です。キーワードは、次の通りです(下線は必須用語)。青森県、縄文時代、大規模集落跡、竪穴式住居、高床式倉庫、大型の掘立柱建物、堅果類(クリ、クルミなど)、栽培植物(エゴマ、ヒョウタン、マメなど)、狩猟・採取、農耕、土偶、土器、石器、翡翠、交易、漆器。

### (7) 絵巻物

日本の絵の画面形式として代表的である点を踏まえつつ、具体的な作例やその表現をあげながら、その特質と

歴史的な推移を論じることを求めています。

### (8) 国家総動員法

総力戦に向けた戦時体制強化の状況を問う問題です。国家総動員法は、日中戦争開戦の翌 1938(昭和 13)年に制定され、政府が議会承認なく物資・資本・労働力を動員することを可能にしました。前年の国民精神総動員運動、翌年の国民徴用令、価格等統制令とあわせると、精神・身体・生活のすべてが戦争に向けて動員・統制されていった様子がわかります。企画院が作成した物資動員計画によって、戦時体制下の軍需産業(機械工業)は大きく伸びました。その中心となった法律です。

### (9) 与謝蕪村

画人として、また俳人として知られる与謝蕪村について、18 世紀の日本文化の中でどのように捉えられるのか、作品をあげつつ論じることを求めています。

## ◆地理歴史 世界史

要語句(人名、事項など)の説明を求める問題です。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに加えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

### (1) 徽宗

北宋最後の皇帝に関わる問題です。以下の関連事項について年代や内容が正確に論じられているほか、事項の単なる羅列におおらず、文化史・美術史における意義が記されている点も評価対象となります。関連事項:即位の時期、遼および金との関係、靖康の変、王安石(新法党)、風流天子、院体画、桃鳩図。そのほか珍木奇石の蒐集、書など。

### (2) 冷戦

当時の資本主義対社会主義、アメリカ対ソ連、西ヨーロッパ諸国対東ヨーロッパ諸国といった基本的な対立と、そうした対立が起こった歴史的背景として、第二次世界大戦末期の世界の状況をまず正確に押さえてください。その上で、この対立から派生した朝鮮戦争やヴェトナム戦争、この対立によって煽られた核兵器を中心とする軍拡競争とそれに伴うキューバ危機のような危機的状況、またこの対立を象徴するベルリンの壁のような、世界各地での個別の事例について述べてください。しかし問われているのはあくまで冷戦の全体についてです。この意味で個別的な事例を詳説するよりは、社会主義圏での自由化政策の進展につれて「冷戦」全体が終結に向かい、1989年のマルタ会談によって公式に終結が宣言された点を指摘することが重要です。

### (3) プラザ合意

比較的現代に近い、1980年代半ばの経済情勢について問うています。まず「合意」の内容として、アメリカ、イギリス、フランス、西ドイツに日本を加えた資本主義側の先進国5カ国が、基軸通貨であるドルの高値を是正することを目的に、外国為替市場に協調して介入することがあった点に必ず言及してください。こうした合意が必要だった背景には、当時のアメリカの貿易と財政の二つの面での赤字を緩和することが、資本主義圏全体の経済に有意義だと考えられたことがありました。またこの合意の結果、円の価値が急激に上がって日本のバブル経済が起こる一因となったり、その一方アメリカでは、これをひとつの背景に株価の大暴落が起こります。このような「合意」の背景と結果についても指摘してください。

#### (4) バウハウス

1919年にドイツ、ヴァイマル(ヴァイマル)で開校した美術学校です。建築の学習を中心に据えたカリキュラムを有し、20世紀前半を通じてその後も現代に至る建築、デザイン、美術に長く広範な影響をもたらしました。解答のポイントとしてはほかに、ナチスによって反体制派と目され弾圧を受けたこと、またそのために移転を繰り返しながら、最後はベルリンで閉校を余儀なくされたことが、20世紀における政治と文化の対立という問題を考える上できわめて重要です。さらに、クレー、カンディンスキーといった20世紀前半の重要な画家たちが教鞭をとったこと、あるいは閉校後に関係者がアメリカに渡ったことで、近代建築やデザインがアメリカに広がるきっかけとなったことに言及できれば、さらに加点されます。

#### (5) モザイク

美術技法のひとつなので、その素材と表現方法について正確に記述してほしいところです。さまざまな色彩の石やガラス、焼き物などの硬質な素材の切片を並べて図柄を表現する技法であることの説明が求められます。初期中世ビザンチン美術のモザイクの代表例として、ラヴェンナのサン・ヴィターレ聖堂を挙げ、教会堂内部にモザイクで表されている東ローマ皇帝ユスティニアヌス一世についてはぜひ触れてもらいたいところです。また、モザイクは中世の芸術にとらえられがちですが、その起源は古代にあることや、ポンペイ出土のアレクサンダー大王のモザイクなどに言及することも評価の対象となります。

#### (6) 百済

韓国・朝鮮の三国のひとつに関する問題です。以下の関連事項について年代や内容が正確に論じられているほか、事項の単なる羅列におわらず、当時の国際関係を視野においた記述がなされている点も評価対象となります。関連事項:馬韓、高句麗、新羅、三国時代、唐、倭、大和政権、白村江の戦い、日本への仏教伝来。そのほか首都の移転など。

#### (7) ゴシック様式

12世紀後半に西ヨーロッパに現れた美術様式で、ルネサンス期のイタリアの人文主義者たちが野蛮な「ゴート族の様式」と侮辱の意味を込めて呼んだのが始まりです。元は建築に用いられていましたが、次第に建築に施された彫刻や絵画などの美術にも用いられるようになりました。それ以前のロマネスク様式までは、窓が小さくて内部に光があまり差し込まない暗い教会堂が主流でした。しかし、12世紀後半の建築技術の進歩により、高層の教会堂の建造が可能となると、光を取り込む大きな窓が作られてその窓を飾るステンド・ガラスの装飾が特徴となります。壁画に代わり、ステンド・ガラスに聖書の物語が表されるようになったことに言及できればなお良いでしょう。加えて、ゴシック彫刻では人体表現の写実性が高まりルネサンスを準備したことや、ルネサンス期の15-16世紀になってもゴシック様式がフランスやドイツを中心に継承され続けたことにも触れることができれば評価の対象となります。

#### (8) ラファエロ

16世紀イタリア・ルネサンスを代表する画家です。同時期に活躍したレオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロとともに三大巨匠として知られますが、彼らの代表作の特徴を理解し、三者を混同することなくラファエロについて記述することが重要です。ラファエロは、生前より美しい聖母の表現が評判でしたが、彼の代表作としては、ヴァチカン宮殿の教皇の私室エリアに描かれたフレスコ画連作を挙げてほしいところです。《アテナイの学堂》や《パル

ナツソス山》などの主題を簡単に記述できればなおよいでしょう。もう一步踏み込んで、ラファエロの作品には古代美術の人体表現がうまく消化されていることから、後世には各国の美術アカデミーで盛んに手本とされて古典主義が形成される要素の一つとなったことにも触れることができれば高い評価の対象となります。

### (9)都護府

中国の漢代から唐代にかけておかれた辺境統治機関に関する問題です。以下の関連事項について年代や内容が正確に論じられているほか、事項の単なる羅列におおらず、意義が説明されている点も評価対象となります。関連事項：西域都護、羈縻政策、六都護府（安東・安北・単于・安西・安南・北庭）、安史の乱、節度使。そのほか班固、阿倍仲麻呂など。

### ◆小論文

与えられた絵画作品の図版を見て、その意味を解釈してもらう問題です。作品はイタリア・ルネサンスの画家ロレンツォ・ロットの絵で、一般に《純潔の寓意》と呼ばれているものです（ワシントン、ナショナル・ギャラリー所蔵）。ただ、この問題はそのような作品に関する知識を問うものではなく、標準的な解釈とはちがった解釈や読み取りをしても一向にかまいません。出題の意図は、「観察力」、「想像力／構想力」、「文章表現力」を評価することにあります。つまり、観察によって全体および細部の描写の特徴や描かれた状況を把握できているか、その観察に沿った意味のシナリオを構想できるか、考えたシナリオを的確な文章で表現できるか、を評価します。もちろん、ただ恣意的にシナリオを考えればよいというものではなく、絵の観察内容と意味解釈とのあいだに、適切な整合性・説得性があることを重視します。

### ◆鉛筆素描(石膏像)

今回の鉛筆素描の試験では、代表的な石膏像のなかから、古代の青年マルス像を3時間で画用紙に素描することを出題しました。出題の意図は、自分の場所から石膏像を見てどのように感じ取り、対象の形態や光の様子を観察し把握するか。そしてどのように構図を取り、鉛筆という素材と紙という支持体で明暗の調子を表現するか、それらのことから基礎的な造形表現力を評価するものです。限られた時間で的確に石膏像を描写するためには一定の視覚的・造形的訓練が必要ですが、そうした能力を身につけることは、芸術学科の専門領域である美学・美術史の学習・研究にとっても貴重な素養となるのです。